

科学者委員会学術誌問題検討分科会（第3回）議事録

日時：平成21年6月10日（金）10:00～13:00
場所：日本学術会議 大会議室
出席者：浅島委員長，山本(眞)副委員長，玉尾幹事，西郷幹事，植田委員，
田口委員，山本(正)委員
オブザーバー：林和弘氏（日本化学会），永井裕子氏（日本動物学会），
谷藤幹子氏（物質・材料研究機構），尾城幸一氏（東京大学附属図書館）
事務局：渡邊参事官，兼平専門職，鳥生専門職，中島調査員 他

配布資料：

資料1 前回議事要旨（案）

資料 WG1-1 国際発行英文誌のパッケージ配分について（意見）

WG1-2 学術情報へのアクセスの平等化に関する提言（たたき台）

WG1-3 研究型独立行政法人の学術資料整備の現状

WG1-4 独立行政法人コンソーシアム連絡会活動報告

資料 WG2-1 論文誌発信力強化のための施策案【林オブザーバー資料】

WG2-2 論文誌事業行程と担当業務解析

WG2-3 日本における人文系ジャーナルの状況【永井オブザーバー資料】

WG2-4 What is Project MUSE

WG2-5 From Domestic Journal to Fully Fledged

International Journal: The Case of Japanese Economic Review

WG2-6 学術誌問題—人文・社会系の場合

WG2-7 文化人類学とその周辺学問の発信

WG2-8 『文化人類学』掲載論文等利用許諾基準

WG2-9 言語・文学領域の電子ジャーナル問題に関する現状

資料2 今後の進め方について（案）

資料3 科学者委員会 学術誌問題検討分科会委員（案）（追加委員を含む）

（机上配布）

参考1 委員名簿

参考2 学術誌問題の論点について（第1回分科会資料4）

議事

1. 前回議事要旨（案）の確認

浅島委員長より、前回議事要旨について確認を求められ、異議なく了承された。

2. 委員の追加について

浅島委員長より、林和弘氏（日本化学会）、永井裕子氏（日本動物学会）、谷藤幹子氏（物質・材料研究機構）の3名を特任連携会員として委員に追加したい旨の提案があり、承認された。

浅島委員長より、前記承認を受け、今後科学者委員会の審議を経た上で、幹事会に提案し了承を得る旨の説明があった。

3. 本日の議論の進め方について

浅島委員長より、前回会合後、「学術情報へのアクセスの平等化」については西郷幹事が、「国内発行の英文誌発行の必要性、発刊体制」については玉尾幹事が中心となって関係者との検討を進めてきたので、本日は、それぞれのWGから検討状況を報告してもらい、委員全員で審議するという形で進めたい、との提案があり、了承された。

4. 「学術情報へのアクセスの平等化」について

西郷幹事から、資料WG1-1およびWG1-2に基づき、「バックファイルセンター構想」および「地区センター構想」について説明があった。また、谷藤オブザーバーから、資料WG1-3およびWG1-4に基づき、研究型独立行政法人での（電子）ジャーナル並びに図書購入の現状について説明があった。また今後は、各紙機関、例えば国立情報学研究所（NII）との連携方策案、国公立大学の連携に於ける規模別グループ化と対応案、個別特別分野の対処法などを煮詰めていく必要があるとの見解が述べられた。

説明について、以下の議論がなされた。

- ・○電子媒体（電子ジャーナル）だけを問題にせず、紙媒体を含めた学術情報へのアクセスの平等化を考えるべきである。 → 紙媒体についても十分に考慮しているつもりだが、ご意見が出るような、誤解を招く表現について今後は改めたい。
- ・○「学術情報へのアクセスの平等化」については、大学だけではなく、研究型独立行政法人も同じような状況におかれていることから、対象に入れるべきだ。 → 大学および研究機関との表現を用いて対象にしていると認識してきたが、国公立大学という表現も使っているため、今後は「国公立独」と表現することを提案したい。
- ・○この問題は国内だけのものではない。世界規模で考える必要がある。 → 国立大学図書館協会では、世界の学術情報（電子媒体＋紙媒体）購入に関するコンソーシアムの会合に初めて教員を派遣するなど諸外国の機関と情報交換に力を入れつつある。情報を入手次第報告したい。
- ・○小中高の教諭も見られるようにすべきではないか。
- ・○国立情報学研究所は全国大学共同利用機関なので、バックファイルセンター構想でNIIとタイアップしても、研究型独立法人は参加できないので

はないか。 → 即答できないので調査してからお答えしたい。

これらの議論を踏まえ、浅島委員長より、

- ① バックファイルセンター構想については提言とすることとしたい。については、さらにブラッシュアップしていただきたい。
- ② 地区センター構想については、情報送達方法（ILL）、著作権などに問題が発生することも考えられるので、再度調査の上次回に提案していただきたい。
- ③ 日本国内だけの問題でないことは十分承知しているが、当面の提言を考えると問題が大きすぎるので、この件については今後の課題としたい。
- ④ また、小中高の教諭も見られるようにとの意見についても、十分に理解できるが、現在は見られない状態になっていることを考えると、これについても今後の課題としたい。
- ⑤ （教育）研究機関については、今後は提案にあったように「国公私独」と表現したい。
- ⑥ 府省の枠組みに囚われ、制限のかかる提案は本意ではない。府省の枠組みを考えずに提言を作成したい。フェアな立場からの提言としたい。

との提案があり、了承された。

5. 「国内発行の英文誌発行の必要性、発刊体制」について

永井オブザーバーから、資料 WG 2-3 に基づき「日本における人文系ジャーナルの状況」について、山本副委員長から、資料 WG 2-6 および資料 WG 2-7 に基づき、「学術誌問題—人文・社会系の場合」および「文化人類学とその周辺学問の発信」について、田口委員から、資料 WG 2-9 に基づき「言語・文学領域の電子ジャーナル問題に関する現状」についての報告があった。次いで、玉尾幹事と植田委員から「論文誌発信力強化のための施策案」について概略説明とについての提案があり、引き継いで林オブザーバーから Institute of Scholarly Publishing and Communication (ISPC) モデルを含む詳細な提案説明があった。

説明・提案について、以下の議論がなされた。

- ・人文・社会系では学術情報に対する考え方や発表方法はSTM系とは異なる点が多々あるので、それらの事情を勘案する必要があるのではないか。
→ 国内学術情報の多様性は認識しており、それぞれに適したプラットフォームが構築できるような設計を考えている。
- ・ISPC モデルだと、初期に購読の落ち込みが考えられるが、その回復進度も含めて問題はないか。 → そのことは十分織り込んだ案になっている。
- ・人文・社会系の学術情報の発信にも十分な配慮が必要である。 → ISPC モデルは多様な対応が可能なモデルであると考えている。

引き続き、浅島委員長より、

- ① 各学問分野の多様な要求に対応できるよう十分に検討されており、このモデルを提言とすることとしたい。
- ② 短期、中期、長期と、時間軸を見据えたビジョンとして整理していただきたい。

との提案があり、了承された。

6. 今後の進め方について

浅島委員長より、以下の提案があり、了承された。

- ① 短期、中期、長期と、時間軸を見据えたビジョンを作成していただきたい。
- ② 現状分析、構想、提言が明確にわかるようにしていただきたい。
- ③ 次回会合までに、報告書骨子案・素案第一稿をまとめたい。
- ④ 骨子案・素案第一稿の作成に当たり、「全体の取りまとめ」を山本副委員長に、「学術情報へのアクセスの平等化」については西郷幹事に、「国内発行の英文誌等の発行体制」については、玉尾幹事に作業のとりまとめをお願いしたい。
- ⑤ 関係機関と話し合う必要があるので、7月中に各WGでの骨子案・素案第一稿の作成と2つのWGのディスカッションが必要と思われる。そこで、次回8月20日以前に分科会を開催することしたい。

との提案があり、了承された。

7. 今後の予定について

浅島委員長の提案・了承に基づき日時の調整を行い、以下のように決定した。

第4回	7月31日	16:00-18:00
第5回	8月20日	15:00-17:00
第6回	9月14日	17:00-19:00

以上